C—61　枕の人間工学的研究（第3報）
—心弾図と寝姿勢—

西南女学院短大　○村上　清司
峯崎フミコ
新村　律子
大場　恭子

1.　循環器系疾患の診断の一方法である心弾図法を，我々の試作枕に応用して，その有用性を検討しようとしているが，その過程で，まず仰臥，横臥の寝姿勢と心弾図との関係を見た。

2.　1)Ultralow-frequency Ballistcardiograph を用いて，各寝姿勢毎の偏位波形を記録し，その相異を知る。

2)　被験者をウレタンフォーム（厚さ5 cm）の上にねさせ，その心拍にともなう体の上下方向の振動を，頭頂にとりつけたコアーと差動トランスによって，偏位波形として記録し，寝姿勢の相異による変化を見る。

（備考——装置は，九大第三内科小川滋研究室のものを利用し，なお同研究室の石橋正義氏の協力を得た）

3.　方法1)・2)共に，仰臥及び伏臥では振幅が大きく，これにくらべて横臥では振幅が小さくしたがって制動が大きいことを示した。なお，横臥の右下と左下とでは，左下の方が振幅が小さい。つまり制動が大きいことを示している。小川研究室では制動が大きい場合程心臓に負担がかかり，循環器系統が有害であろうと見ている。